

秋の彼岸によせて

平成十三年九月十八日 大乘寺 副住職 岡 光俊

アメリカ、ニューヨークで起きたテロ、それに対して報復準備を進めている。皆さまはこの件に対してどのような考えをお持ちでしょうか。

勝ち負けには、目の前で起こる勝ち負けもあれば、人間の思考力の範疇はんちゆうにはない、遥かに高いレベルの勝ち負けもあります。人間は勝ち負けだけで生きているわけではありません。学ぶという力が、ほかの生物より優れています。人間の子供は勝ち負けで教えられるより、愛情を持って正しいことを教えられることにより、より高いレベルの心を身につけるものです。

それでは、そのような心は、いつ誰によって身につけることができるのでしょうか。

それは家庭です。親がなにが正しい心かを知り、正しい愛情と正しい厳しさの中で子供を育てることができれば、目の前の勝ち負けに気を奪われるような、愚かな心の人間に育つことはないでしょう。

では正しい心とは、どのような心をいうのでしょうか。この価値観が大切です。

日本のように自由な国では、それは個人の考えによるということになるのですが、その考えが大間違いであったことは、昨今の青少年の生活や犯罪を見れば理解できるでしょう。レベルの低い考え方では、自分にとって都合の良いことは正しく見え、都合の悪いことは悪と見えるのです。もったいいえば、欲のかたまりである、私たち人間は、目の前の欲しか見えていないので、己おのれのみが一番正しいと思えるのです。しかしこの考えでは、いつまでも争いが絶えません。

そこで、より高いレベルの考え方を、神佛は人間に教えておられ

ます。それがお経です。お経には人間の姿をしている私たちのなかに、どのような心が入っているか自己診断することから始めるように、と説かれています。まずは、自身をこの世に出して頂いた親に、どれほどの感謝をし、この親に孝を尽くす心がどれほどあるか、そのことを毎日どれほど実行しているか。また今、命を頂いていることは、今日までの何方というご先祖さまの命の引き継ぎのお陰である、そのことにどれほど感謝をし、その感謝を表すために毎日どのようなことを実行しているのか。その行動をよくよく振り返って頂くことが、まずは大切でしょう。仕事や趣味に忙しいと、ご先祖さま、親をそっちのけに、自分の欲を満たそうと日々の尊い時間を過ごしている方は、お経からすると餓鬼や畜生の心の持ち主ということになります。

それに対し、親、ご先祖さまが最もお喜びになり、因縁も成佛して頂けるお経を毎日読誦し、親に孝を尽くすことを実行している人が、最も尊い心の持ち主とされております。

秋の彼岸、この日より、家族揃って佛壇の前で静かにお経を頂き、お経に書いてあることを、毎日の仕事や生活の中で実行していけば、正しい人間の心に知らぬ間にならせて頂いているものです。そのような時間が一日一度頂ける生活も、必要な時期にきているのではないのでしょうか。

勝とは、本来、この世に持ちきたった相手の魂と肉体を、最大限に生かすことができる己となること。相手に自分の我を、ただ押しつける低いレベルの己にならないように。